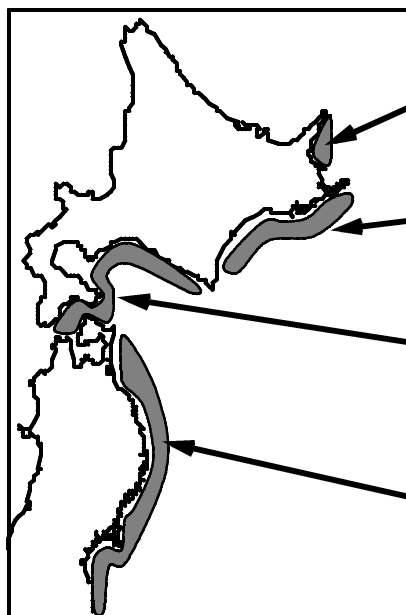


平成19年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2007年10月～12月)のポイント

常磐～北海道東部までの北部太平洋海域におけるスルメイカの来遊水準は2006年を上回る



- ・根室海峡周辺海域：
来遊量は2006年を上回る
魚体は22～27cmが主体（11月）
- ・北海道東部海域：
来遊量は2006年を上回る
魚体は21～26cmが主体（10月）
- ・津軽海峡～北海道南部海域：
来遊量は2006年を上回る
魚体は22～27cmが主体（11月）
- ・常磐～三陸海域：
来遊量は2006年を上回る
魚体は24～27cmが主体（11月）

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、田中、佐藤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press>

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>

平成19年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2007年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～北海道南部海域、
北海道東部海域、根室海峡周辺海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象系群：冬季発生系群（2007年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網）

(1) 来遊量：2006年を上回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：2006年より1～2cm大型。11月では24～27cmが主体。

2. 津軽海峡～北海道南部海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：2006年を上回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：2006年より1～3cm大型。11月では22～27cmが主体。

3. 北海道東部海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：2006年を上回る。

(2) 漁期・漁場：10月まで漁場が形成される。

(3) 魚体：2006年より1～3cm大型。10月では21～26cmが主体。

4. 根室海峡周辺海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：2006年を上回る。

(2) 漁期・漁場：11月が漁期の中心となる。

(3) 魚体：2006年より1～3cm大型。11月では22～27cmが主体。

漁況の経過（2007年6月～8月）および今後の見通しについての説明

（1）資源状態

太平洋海域に来遊するスルメイカは冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970～1980年代は低位水準で推移し、1989年から増加に転じ、近年では1996年（漁獲量：276,249トン）が最も資源水準の高い年となった。増加に転じた1989年以降では、資源水準が大きく変動した期間も見られたが、2000年以降はおおむね中位水準で推移していたと考えられる。

なお、2006年10～12月の漁獲量は29,100トンで、2005年同期の54%に減少していた。海域別では、常磐～三陸海域および津軽海峡～北海道南部海域で前年比46%、55%に大きく減少し、北海道東部～根室海峡周辺海域では前年比94%であった（表1）。

（2）関連調査結果

第2次漁場一斉調査（道県水産試験研究機関・水産総合研究センター、8月中旬～9月中旬、いか釣り）および関連いか釣り調査（岩手県水産技術センター、8月中旬～9月中旬）によると、三陸南部～北海道東部の各沿岸域を中心にスルメイカは漁獲され、岩手県沿岸、津軽海峡東口周辺海域、襟裳岬～根室半島周辺海域では高いCPUE（釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）を示す点が見られた。前年の調査と比較すると、三陸南部～北海道東部の各沿岸域におけるCPUE増加が特徴であった。また、根室海峡周辺およびオホーツク海では前年同様、スルメイカの漁獲はほとんど無かった。これら調査から算出した三陸・北海道太平洋海域での平均CPUEは6.20尾であり、2006年（0.78尾）の793%に大きく増加し、2000年以降では2005年に次ぐ高いCPUEであった。そして、近年5年平均比でも168%と高い水準であった（表2）。

（3）2007年の各海域の漁況経過（主に6月～8月、一部未集計）

2007年6～8月の高知県以東太平洋側主要港でのスルメイカ漁獲量（釣り、定置網、底びき網、まき網等；生鮮）は29,618トンであり、2006年（17,585トン）を上回り、近年5年平均比で98%となった（表3）。この漁獲量増加の原因として、冬季発生系群の資源水準の増加および日本海の不漁による太平洋海域の漁獲努力量の増加が考えられる。以下に海域ごとに述べる。

- ・房総以西海域：高知県での釣りによる6～8月の漁獲量は133トンであり、2006年（101トン）の132%に増加した。特に清水港（足摺岬）での漁獲量増加（22トン→70トン）が顕

著であった。和歌山県での釣りによる6～8月の漁獲量は69トンであり、2006年（63トン）並みであったが、すさみ港のCPUEは2006年を上回った。三重県での釣りとまき網による6～8月の漁獲量は125トンであり、2006年（330トン）を大きく下回った。特に6～7月にかけての銘柄大の漁獲量減少が顕著であった。なお、釣りのCPUEは2006年並みであった。静岡県での釣りによる6～8月の漁獲量は24トンで、2006年（32トン）を下回ったが、CPUEは2006年並みであった。神奈川県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は2トンであり、2006年（1トン）を上回り、釣りのCPUEも2006年を上回った。千葉県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は8トンであり、2006年（6トン）並みの低い水準であった。一方、釣りのCPUEは2006年の442%に増加し、2005年並みの水準となった。以上のように6～8月の房総以西海域では、高知県や千葉県、神奈川県を除き、来遊量が前年を下回る状況になっていたと推測される。

- ・常磐海域：茨城県での沖合底びき網および小型底びき網による4～6月の漁獲量は29トンであり、2006年（9トン）を上回り、沖合底びき網のCPUEも2006年の361%に増加し、2005年並みの水準となった。福島県での釣りおよび底びき網による6～8月の漁獲量は43トンであり、2006年（90トン）を下回った。沖合底びき網のCPUEは2006年の58%に減少したが、釣りのCPUEは2006年並みであった。以上のように、6～8月（一部5月）の常磐海域では、前年をやや下回る来遊水準であったと推測される。
- ・三陸海域：宮城県での釣りによる6～8月の漁獲量は1,863トンであり、2006年（931トン）を大きく上回り、CPUEも2006年の205%に増加した。また、底びき網による6～8月の漁獲量は594トンであり、2006年（273トン）を上回り、CPUEも2006年の280%に増加した。一方、定置網による6～8月の漁獲量は272トンであり、2006年（604トン）を下回ったが、2005年（222トン）は上回った。岩手県での釣りによる6～8月の漁獲量は3,272トンであり、2006年（517トン）を大きく上回り、CPUEも2006年の309%に増加した。しかし、定置網による6～8月の漁獲量は1,213トンであり、2006年（1,562トン）をやや下回った。青森県白糠港および八戸港での釣りによる6～8月の漁獲量は5,033トンであり、2006年（1,232トン）を大きく上回り、CPUEもそれぞれ、2006年の155%、211%に増加した。八戸港のまき網による6～8月の漁獲量は6,133トンであり、2006年（1,842トン）を大きく上回った。以上のように、6～8月の三陸海域では、概ね前年を上回る来遊状況であったと推測される。
- ・津軽海峡～北海道南部海域：青森県大畑港の釣りによる6～8月の漁獲量は963トンであり、2006年（529トン）を上回り、CPUEも2006年の148%に増加した。渡島支庁におけ

る釣りおよび定置網による6～8月の漁獲量は5,405トで、2006年（7,235トン）を下回った。しかし、函館港近海における釣りのCPUEは2006年の113%であった。胆振・日高両支庁における釣り、定置網等による6～8月の合計漁獲量は1,677トンであり、2006年（1,729トン）並みであったが、日高支庁浦河港における釣りのCPUEは2006年の133%であった。以上のように6～8月の津軽海峡～北海道南部海域では、津軽海峡～海峡東口青森県側で前年を上回り、それ以外の海域では前年並～やや下回る漁獲であった。しかし、いか釣りのCPUEは全域で前年を上回っていた。これらのことから、6～8月の来遊群の豊度は前年を上回る水準であったと推測される。

- ・北海道東部海域：2007年は前年より1ヶ月早い8月に釣り漁業が本格化した。北海道東部海域沿岸での釣りによる7～8月の漁獲量は2,269トン（小型船のみ）であり、2006年（393トン）を大きく上回った。また、釧路港における釣りのCPUEも2006年の206%に増加した。また、前年は見られなかった中型いか釣り船も、日本海沖合域の不漁を受け、数十隻が操業したもようであり（漁獲量未集計）、これらを含めた道東海域の漁獲量は前年を大きく上回ったと推定される。
- ・根室海峡周辺海域：羅臼近海における釣り、定置網等による7～8月の漁獲量は11トで、2006年（2トン）を上回った。なお、釣りによる漁獲は9月25日まで確認されておらず、前年と同様に初漁が遅れている。

（4）魚体の大きさ

- ・8月中旬～9月中旬の漁場一斉調査（いか釣り）で漁獲されたスルメイカの外套背長組成は、20～24cm主体でモードが22cmの単峰型を示していた。2006年同期の調査結果では、19～22cm主体でモードが21cmであり、2006年は前年より全体的に1～2cm大きく、2004年に近い組成となった。海域別に見ると、三陸海域が22～25cm主体でモード23cm（2006年：20～21cm主体でモード21cm）、下北半島～襟裳岬以西海域が20～23cm主体でモード21cm（2006年：19～23cm主体でモード21cm）、北海道東部海域（襟裳岬以東）が20～25cm主体でモード22、24cm（2006年：16～22cm主体でモード21cm）であった。

（5）今後の見通しの説明

- ・根室海峡周辺海域：根室海峡周辺海域の来遊状況に大きな影響を及ぼすと考えられる国後島周辺海域の7月中旬～8月下旬の表面水温は、7月下旬までは昇温が遅かったが、8月以降は2006年より高温傾向で推移していたため、来遊条件としては前年

よりも好転すると推測される。なお、オホーツク海の表面水温は2006年と同様に高温傾向で推移しているため、主漁期は前年と同様に11月以降と予測される。8月下旬～9月上旬に実施されたオホーツク海および根室半島周辺でのいか釣り調査では、スルメイカの濃密群は確認できなかった。一方、根室海峡周辺海域に来遊すると推定されている太平洋沖合北上群は、第1次漁場一斉調査等から、2006年並みかやや上回る水準と推定されている。以上のことから、根室海峡周辺海域に来遊するスルメイカは前年を上回る水準と推測される。

- ・北海道東部海域：2007年8～9月上旬までに北海道東部海域に来遊したスルメイカは、8月下旬までの漁況情報および第2次漁場一斉調査結果等から前年を上回る水準と推測された。2000年以降、北海道東部太平洋岸の主漁期は8～10月であり、11月には漁獲量が大きく減少する。そのため、今後は1ヶ月程度でこの海域の漁期は終了すると予測される。
- ・津軽海峡～北海道南部海域：津軽海峡～北海道南部海域の漁況は北海道東部海域からの南下群の動向と関連が深く、この南下群は津軽暖水の勢力減少にともなう水温低下とともに津軽海峡東口周辺海域に来遊すると考えられている。2007年の襟裳岬以東の北海道東部沿岸域の来遊群は昨年を上回る水準と予測されるため、津軽海峡～北海道南部海域に来遊する資源水準も2006年を上回ると推測される。
- ・常磐～三陸海域：常磐～三陸海域の2007年の来遊状況は、漁獲量やいか釣りCPUEの比較から2006年を上回る水準と推測された。10月以降の来遊水準に関しても、周辺海域での調査結果および漁況状況から2006年を上回る水準になると推測される。
- ・海域別の外套長組成：第2次一斉調査で漁獲されたスルメイカの海域別の外套背長組成を前年と比較すると、三陸海域で2cmモードが大きくなり、下北半島～襟裳岬以西海域では前年並みであり、北海道東部海域では1～3cmモードが大きくなり、全体的には2006年より1～2cmほど大型であった。2007年11月の漁獲主体の魚体は、今後の漁獲主体が北海道東部海域からの来遊群になると予想されるため、2006年より1～3cm大きくなると推定される。

表 1. 太平洋海域におけるスルメイカの10～12月漁獲量

年	千葉以西	常磐・三陸	津軽海峡周辺	道東・根室海峡	合 計
1999	167	13,446	7,477	4,196	25,286
2000	185	19,848	22,469	32,550	75,051
2001	139	33,922	22,452	16,211	72,724
2002	148	42,041	8,802	7,482	58,473
2003	39	14,029	34,805	4,642	53,515
2004	100	25,828	12,891	7,449	46,268
2005	143	30,026	16,263	7,045	53,477
2006	85	13,390	9,022	6,604	29,100

(釣り, 定置網, 底曳き網等による, 生鮮, ト)

表 2. 第 2 次漁場一斉調査および関連調査(8月下旬～9月中旬)における
いか釣り試験での操業地点数と平均CPUE(釣機1台1時間当たり漁獲尾数)

年	操業地点数	平均CPUE	年	操業地点数	平均CPUE
1992	64	15.45	2000	57	4.90
1993	56	3.38	2001	43	6.07
1994	37	2.04	2002	57	3.25
1995	45	1.33	2003	54	3.87
1996	52	3.73	2004	61	2.50
1997	48	5.16	2005	52	8.00
1998	46	2.87	2006	56	0.78
1999	49	0.51	2007	49	6.20

(集計海域：北緯39～43度, 東経141～146度)

表 3. 太平洋海域におけるスルメイカの6～8月漁獲量

年	千葉以西	常磐・三陸	津軽海峡周辺	道東・根室海峡	合 計
1999	569	12,897	6,558	216	20,239
2000	412	26,466	7,948	2,706	37,532
2001	607	13,771	8,556	642	23,576
2002	538	15,531	11,721	96	27,887
2003	506	21,395	11,302	240	33,443
2004	822	24,200	10,701	1,546	37,269
2005	533	17,750	14,543	2,168	34,995
2006	533	7,124	9,517	412	17,585
2007	360	18,566	8,076	2,617	29,618

(釣り, 定置網, 底曳き網等による, 生鮮, ト, 2007年一部未集計)

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場 北海道立函館水産試験場	三重県科学技術振興センター 水産研究部
青森県水産総合研究センター	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産研究開発センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
福島県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
茨城県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所 中央水産研究所
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産技術研究所	